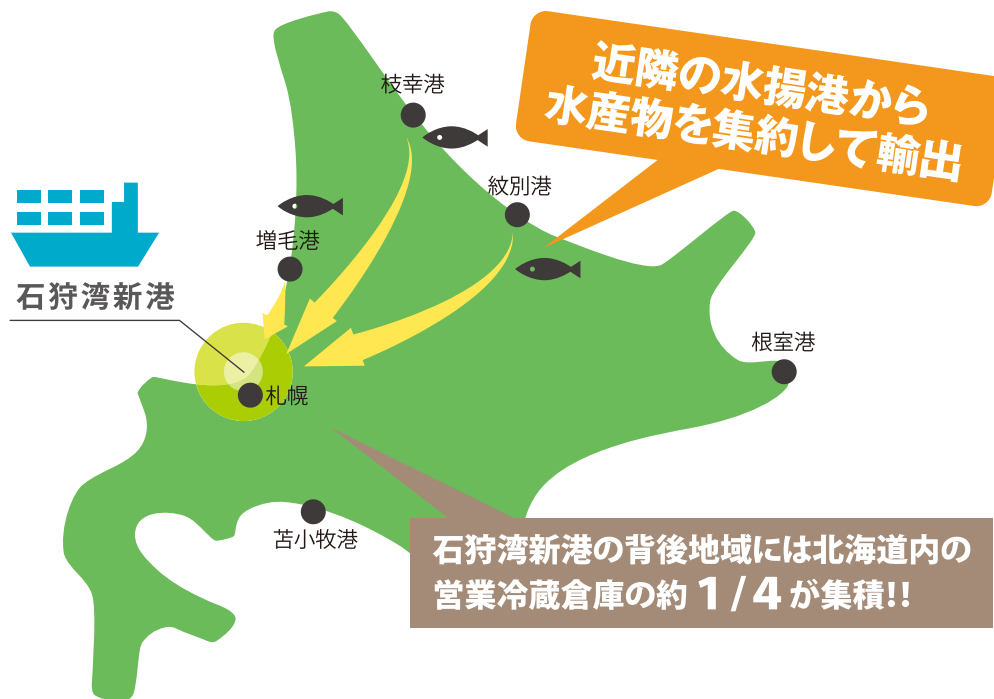


## 全国第1号! 農水産物輸出促進計画の認定

### 北海道産農水産物の輸出拠点として、港湾施設の整備を進めていきます



国土交通省港湾局が創設した農水産物の輸出促進に向けた事業制度において、石狩湾新港を含む道内6港湾が策定した農水産物輸出促進計画が、平成29年5月に全国第1号で認定を受けました。

石狩湾新港では、小口貨物積替円滑化支援施設(CFS)の整備と冷凍・冷蔵コンテナの電源供給設備の増設が進められることになり、北海道産品の輸出拠点としての利便性が一層高まります。

### 石狩湾新港を活用した北海道産品の輸出イメージ

#### 小口貨物積替円滑化支援施設の整備



#### 冷凍・冷蔵コンテナ電源供給設備の増設



# 興亞海運航路開設20周年記念セミナー開催



**祝20周年** 興亞海運の航路開設を祝う

韓国船社の興亞海運株式会社が石狩湾新港に外貿定期コンテナ航路を開設してから20周年を迎えたことを記念して、7月18日に石狩湾新港管理組合において記念セミナーを開催しました。

セミナーでは、三栄海運株式会社（興亞海運株式会社の日本総代理店）代表取締役社長の山池様へ、石狩湾新港振興会の山田会長と石狩湾新港管理組合の本多専任副管理者から記念品が、石狩湾新港管理組合・石狩湾新港外貿貨物利用促進協議会から感謝状が贈呈されました。

また、7月25日には、コンテナ船ハイペリオン号に記念訪船を実施し、石狩湾新港管理組合と石狩湾新港振興会、石狩湾新港外貿貨物利用促進協議会から、歓迎の意と航海の安全を祈願し、船長へ記念品と花束が贈呈されました。



中央：三栄海運(株)山池代表取締役社長  
左：振興会山田会長、右：本多専任副管理者

コンテナ船ハイペリオン号にて船長へ花束を贈呈



サハリンプロジェクト関係の貨物を積んだ台船：樽川埠頭

## サハリンプロジェクトをサポート

本年5・6月にサハリンプロジェクトの貨物を積んだ台船3隻が石狩湾新港に寄港しました。東アジア等で製造されたサハリンプロジェクト関係の機器を石狩湾新港に一時寄港した後、サハリンへ輸送する動きが昨年から続いています。

また、本港の中央埠頭は北海道で唯一のLNG輸入基地としての役割を担っており、その多くがロシア・サハリンから輸入されています。引き続き、将来的なロシア極東地域との貿易や北極海航路の継基地としての利活用に向け、可能性を探っていきたく考えています。



就任のご挨拶  
石狩湾新港管理組合  
専任副管理者  
**本多 弘幸**

Hiroyuki Honda  
昭和64年1月、北海道に入庁、建設部建設政策局建設政策課長、建設部まちづくり局長などを経て、平成29年4月より現職

石狩湾新港は、平成6年に国際貿易港として開港した若い港ですが、札幌圏の海の玄関口である地理的優位性と高い港湾機能が徐々に評価されてきたこともあり、平成28年は取扱貨物量と外貿コンテナ取扱個数がいずれも過去最高を記録し、日本海側の物流拠点として、さらなる可能性を有する港であると考えています。

近年は、北海道初のLNG輸入基地が稼働し、LNG火力発電所の建設が進められているほか、洋上風力発電のプロジェクトが動き出すなど、札幌圏のみならず北海道全域のエネルギー供給拠点としての役割も高まってきているところです。

本年5月には、国内で初めて農水産物輸送促進計画が国から認定されましたので、北海道産品の輸送促進に向けた港湾施設の整備に戦略的に取り組んでまいります。

当組合では、北海道経済の一層の活性化に資するよう、利用者のニーズに応えた港湾施設の拡充を図り、より利用しやすい港づくりを積極的に進めてまいります。